

1 雅彦の実家のシーン 外海町

外海町は、日本の清流「神浦川」や五島灘に映える雄大な夕景など、豊かな美しい自然をはじめ、特色ある地域固有の歴史と文化遺産に恵まれています。歴史・文化のシンボルゾーンとしての「出津文化村」、遠藤文学の情報発信基地としての「遠藤周作文学館」などがあります。

2 幻想ともイメージともつかぬ オープニングシーン あぐりの丘

緑と自然と海の青さの眺望の中で、土や自然と親しみながら、一日中楽しく過ごせる農業公園型レジャー施設です。自然との共生をテーマとし、青空市場や売店がある「門のエリア」、農園や花畑がある「畑のエリア」、地ビールや石窯で焼いたパンが味わえ、バーベキューも楽しめる「街のエリア」、バレーボールなどの遊具が揃った「憩のエリア」、バレー・バレー作りなど様々な体験教室や芝生広場がある「村のエリア」、放牧場など動物とのふれあいの場がある「牧のエリア」の6つのエリアからなる、ヨーロッパの農村をイメージした施設です。

3 海に見える坂のシーン 海に見える教会のシーン 善長谷教会

善長とは、ポルトガル語で異教徒を意味するゼンチョールが訛ったものといわれています。善長谷は江戸時代は佐賀藩深堀領で、潜伏キリシタンが居住していました。明治28年(1895)に教会が建設されたが、現在の教会は昭和27年(1952)再建されたものです。

4 穏やかに風ぐ 春の海のシーン 牧島「ペーロン体験」

長崎の男達が心をひとつに漕ぎ出す勇壮なペーロンは、海神を祭る中国伝来のポートレースです。長崎の伝統行事の一つであるペーロンの体験は、海(自然)とのふれあいや、また、地元の人達との語らいなど都会生活では味わえない貴重な体験ができます。

長崎への想い



岩屋神社にて



迎仙閣(松原町)にて

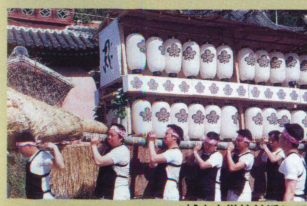
松坂慶子 / 石田節子役
市内から30分のところにあんなきれいな海があるなんて、とてもうらやましい街ですね。地元の人たちは、とても温かくて、明るいい人が多く、よくしていただきました。歴史にも、人にも奥行きを感じ長崎が大好きになりました。節子は、繊細さと強い生命力を併せもった女性です。そして、人生を生ききった人だと思います。そんな節子さんの生きる姿を皆さんにぜひ見ていただきたいですね。

高島礼子 / 櫻井喜代子役
映画「長崎ぶらぶら節」の撮影以来でした。今回もゆっくり長崎を楽しむ時間が取れなくて、とても残念でした。ただ、さだまさしさんの歌「秘伝」に歌われた「魔法の鍋」の味(中国料理)をたっぷり堪能しました。長崎弁はかなり勉強したのに、地元の人が話すのを聴くとどこか違うんですね。つくづく難しいと感じました。主人公の母親という大事な役だから、見た人の心に残るような演技が心がけました。ぜひ見てください。

田中邦衛 / 櫻井雅人役(特別出演)
皆さんと仕事させていただいて、とてもやりがいがありました。長崎は久しぶりなので滞在した10日間、街を散策するのが楽しかったです。おじさんに話しかけられたり、眼鏡橋では、昔のように川で遊ぶ子供の姿があって、何度来ても、なんだか心が温かな気持ちになる素晴らしい街です。これからも、「精霊流し」のような伝統行事を大切にしてもらいたいと思います。

内田朝陽 / 櫻井雅彦役
長崎の街を一人で散歩したり、買い物に行ったりしました。長崎の人ってとても親切ですね。食べ物は何でも美味しいし、魚介類も新鮮で最高です。特に皿うどんの細麺が気に入りました。今回の映画では、人と人のふれあいや、人のやさしさが伝わればいいなあと思っています。雨に濡れた石畳も風情があって、なかなか良いですよ。日常の中にある「長崎の良さ」を感じてもらえるとうれしいですね。

精霊流し



城山小学校付近にて

初盆の家では、8月15日に精霊流しと称して、提灯などで飾った船を現在はハッピ姿とハチマキ姿も勇ましい若い男女がかついたり、ひいたり、礼装した家族が、その後につづき、港まで運び、故人の霊が極楽浄土に帰るのを見送ります。精霊船は、主に藁や竹を用いて作られており、船先の「みよし」の部分には、正面に紋章や屋号、シンボルマークが画かれ、「みよし」の中のローソクの明かりで照らし出されます。また、帆柱を立て、帆には極楽丸、西方丸、浄土丸などの船名や阿弥、観音などの仏画で彩られます。流し場までの道のりで花火を上げたり、爆竹を鳴らしたり、「チャンコン・チャンコン」の双盤(カネ)の音、「ドイドイ」のかけ声とともに夜半にいたるまで街中が光の海と化します。特に大波止へと続く道々には、精霊流しの長い列が続きます。

精霊船の由来

長崎の精霊流しは、全国各地で行われていた「万灯流し」や「まこも包みの川流し」などのお盆の習慣が、港という地形的条件と国際貿易都市として独特の環境性やそれに伴う風習が影響して、「精霊船」の原型が生み出され、発達変化して今日に及んだものです。

観光についてのお問い合わせは
長崎市観光宣伝課
長崎市桜町4-1 TEL.095-829-1314
(社)長崎国際観光コンベンション協会
長崎市出島町9-15 TEL.095-823-7423



別離の瞬間まで行くは
何も知らなかった
ふたりの母が秘めていた
ほんとうの想いを。
ありがとう、かあさん。

精霊流し

しょうろうながし

ロケ地マップ

監督 田中光敏
原作 さだまさし(白鳥)

日本中の人、世界のの人に
長崎の街を観てもらおうのがうれしい。

松坂慶子

田中邦衛

推定裕平

置江敏三

仁科亜季子

山本太郎

高島礼子

池内博之

酒井美紀

内田朝陽

配給 / 日活 東北新社 ©2003「精霊流し」製作委員会

映画『精霊流し』ロケ地MAP

長崎の風景の中で感動のシーンがよみがえる。



★1 長崎・ジャズバー「椎の実」のシーン 東山手洋館住宅群

明治30年頃に外国人への貸家として建てられた洋館が現在、7棟残っていて古写真資料館・埋蔵資料館・東山手町並み保存センター・東山手地球館として一般公開しています。



★2 坂道の下のシーン オランダ坂

その昔、長崎の人は外国人のことを「オランダさん」と呼び親しみ、東山手や南山手などに住むオランダさんがこの坂を往來していたことから名付けられた長崎浪漫あふれる石畳の坂道です。



★3 料亭「花月」のシーン 史跡料亭「花月」

寛永年間の創業。ここを訪れ、長崎を楽しんだ人々や蜀山人、頼山陽、高杉晋作、坂本龍馬などそうそうたる顔ぶれです。大広間の柱には龍馬がつけたといわれる刀傷が残っています。



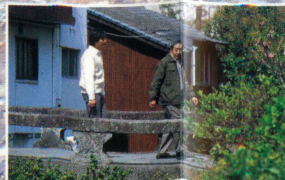
★4 和田家の墓地のシーン 階台寺

曹洞宗。慶長13年(1608)創建。格式の高い寺院で、境内には長崎奉行永井筑前守や松平石見守の墓の他、後山には町年寄高島家、後藤家(以上、市史跡)、薬師寺家、高木家などの墓地の他、オランダ商館長ドラフの子供道富文吉の墓や商館医シーボルトの妻お滝や娘のお福の墓などがあります。



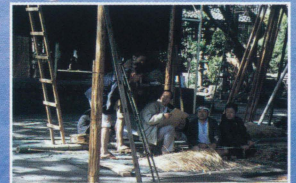
★5 川のせせらぎのシーン 眼鏡橋・中島川石橋群

興福寺の住職を務めた黙子如定によって架けられた日本最古のアーチ式石橋と川の心温まる風情でホッとひと息いれるにはもってこいの散歩道です。



★6 作業場のシーン 松森天満宮

松森天満宮は諏訪神社のすぐ近くあり、学問技芸の神として市民に親しまれてきました。この神社の本殿を囲む瑞垣の欄間には、全国的にも珍しい30枚の「職人尽」の彫り物があり、県の文化財に指定されています。



★7 チンチン電車が走るシーン 路面電車

大正4年(1915)に路面電車の運行を開始しました。東京・仙台・熊本市電など各地から来た電車も思い出多い故郷時代のボディ一色に復元し、みんな独自のスタイルで元気に走り回っています。また、市内の名所・旧跡は殆ど電車沿線に点在しているので一日何度でも乗り降り自由の「電車一日乗車券」(大人500円・小児250円)を利用した観光地回りも好評です。浦上車庫本社3階の資料室では路面電車の歴史を知ることができます。

■入場無料/8:30~17:00(月~金曜日)

